

さつき松原遊歩道の展望所

舗装された「さつき松原遊歩道」には、海岸沿いの美しい景色が見られる木造の展望所があります。展望所からは、大島、地島、沖ノ島などいくつかの島を見ることができます。この遊歩道は、クロマツ（学名：*Pinus thunbergii*）が並ぶ中を通っています。ここにはじめて松の木が植えられたのは400年以上前で、浜辺を浸食から守るためのものでした。現在の木の多くは、200年前に植えられたものです。

聖なる島の眺め

沖ノ島は聖なる島と考えられており、そこに住む神々は古代から崇められてきました。晴れた日には、約60km沖合にある沖ノ島を見ることができるかもしれません。沖ノ島では、4世紀から9世紀の間、安全な船旅を祈る儀式が行われていました。海岸で沖ノ島を望める場所は、遠くから沖ノ島に祈るための「遥拝所」と考えられています。江戸時代（1603～1867年）、人々は、これらの見晴らしの良い松原の場所に来て祈っていました。

遊歩道には海に面した2か所に木造の展望所があり、沖の島々を示す表示があります。大きな島は大島と地島で、展望所からはっきり見えます。大島と地島の間には、遠くに沖ノ島が見えます。

古代の交易路

沖ノ島では、4世紀から9世紀の品々が約8万点も発見されてきました。これらの品は、安全な船旅のために、宗像大社の神々へ捧げられたものだと考えられています。これらの奉獻品には、馬具、金の指輪、青銅鏡などが含まれており、遠くは古代ペルシアから来たものもあります。これらは、日本と他国が早くから交易を行っていた証拠です。

さつき松原近くの地域からは、古代の土器やその破片が発掘されており、中には約 5,000 年前に遡るものもあります。これらの破片には、沖ノ島で見つかった土器に合致するものもあり、2つの場所の間に直接のつながりがあることを示しています。

"「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群" は、2017 年に世界遺産として登録されました。